資料２

令和元年度　武雄市立御船が丘小学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
一人一人の個性を尊重しながら、自ら学び、考え、判断、表現していく創造的な知性と豊かな人間性をもつ心身共に健康な子どもを育てる。	①　気持ちの良いあいさつと、元気の良い返事ができる子ども ②　自分で気付き、考え、実行する子ども ③　健康や安全に気を付け、辛抱強く取り組む子ども

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

3　目標・評価

①「心をみがく　みふねっ子」の育成

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	人権教育の推進	・人権週間や人権集会を通して、人権意識を高める。 ・毎月の「心のアンケート」で「学校が楽しい」と言える児童の割合を90%以上にする。	・学習活動や、集会活動での異学年交流等を通して、思いやりの心や役割意識を高める指導を行う。 ・QUの結果をもとにエンカウンターを取り入れ、よりよい集団づくりにつなげる。 ・年1回以上、職員の人権意識を高める職員研修を実施する。	A	・4～6年生は人権標語を9月に1人1つ作る学習を行ったことで、人権やいじめ問題等に対する意識が高まった。 ・12月の人権集会では、いじめをなくすためのクラスの合言葉を考えて発表し。6年生は修学旅行で学んだ平和についての発表できた。 ・8月にQUの結果を活用する職員研修を行った。また、エンカウンターのエクササイズを含む「学級タイム活動集」を8月に作成し、各クラスで学級タイムに活用できた。 ・「心のアンケート」を6月、9月、2月の3回実施したが、2月調査に於いて、とても楽しい、楽しいと回答した児童の割合が88．1%と、9月時点の81．5%から6．6ポイント向上した。	・アンケートで「あまり楽しくない」「楽しくない」と答えた児童に対して定期的に教育相談等を行い、不安な気持ちが解消できるようにする。 ・生徒指導の3機能（自己存在感、共感、自己決定）を意識した学級経営、学級活動等への取り組みについて、研修を行い、実践家を図る。 ・エンカウンター的な手法や、ロールプレイング的な手法を用いた特別活動を意図的に仕組み、学習を深め、実践化を計る。また、ソーシャルスキルを向上させる取り組みについて研修を行い、実践化を図る。
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめの問題が起きにくい、早期解決に努める学校の推進	・いじめ等の問題行動の早期発見に努めるため、観察及び情報交換を行う。また、年2回の個人面談週間を設ける。 ・いじめ等の問題行動への早期対応や報告、組織的な在り方について職員の理解を深める。	・個人面談週間を設け、学校生活での不安や心配事についての聞き取りを行い、いじめにつながる事象の早期発見につなげる。 ・いじめ防止に関する情報提供を行うとともに、研修会を実施する。 ・毎週実施する職員連絡会での情報交換を通して未然防止、早期発見、早期解決に努める。	A	・個人面談週間を2回実施し、担任が児童一人一人と面談を行うことができた。 ・いじめに関するアンケート（保護者用）と学校生活アンケート（児童生徒用）を2回実施し、すぐに児童や保護者に確認をしたり職員間で情報共有をしたりして、いじめにつながる事象の早期発見・早期対応につなげることができた。 ・4年生～6年生を対象に、「いじめ防止教室」を実施することができた。2月に全学年を対象にいじめ撲滅講演会を実施し、いじめを許さず、立ち向かう勇気や命の尊さについて学ぶことができた。 ・QUアンケートを実施し、研修を行ったことで、児童一人一人の理解や学級の状態を把握することができた。	・いじめに関するアンケート（保護者用）や学校生活アンケート（児童生徒用）学校生活アンケートに加え、教育相談の「心のアンケート」を組み合わせて、いじめに対しての早期発見・早期対応をより一層進める。 ・問題が見つかった場合は、「チーム学校」の意識をもち担任と管理職等との連携により、早急な聞き取りと解決に向けた方策を実行する。 ・QUアンケートの結果を参考にし、個や集団に応じた指導を行うことで、防止や抑制にも力を入れる。

②「知恵をはぐくむ　みふねっ子」の育成

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	・学習習慣・生活習慣の確立・基礎基本の定着と指導方法の改善	・家庭との連携、幼保との連携を図り、よりよい学習習慣と生活習慣の定着を目指す。 ・県学習状況調査(12月)の正答率を県平均と同等にする。	・「みふねっ子カード」を活用し、学習と生活の様子を日々振り返らせ、達成状況を把握し、家庭と連携を図りながら指導していく。 ・TT及び少人数指導により、個に応じた指導を充実させ、基礎基本の定着や思考力の向上を図る。	A	・「みふねっ子カード」は、担任の毎日のチェックにより家庭との連携に生かされ、家庭学習の習慣化ができてきている。また、月１回筆箱チェックをすることで、児童・家庭ともに学習準備の意識が高まった。 ・県学習状況調査の算数では、どの学年を県平均通過率を上回るか、同等で有り、TT及び少人数指導による効果が表れている。 ・授業研究を計画的に実施し、職員間の共通理解を図り、日々の授業実践に取り組むことができた。	・今後も引き続き、「みふねっ子カード」やお便りを通して家庭学習との連携を図っていく。できていない児童には、家庭と連携して個別に指導・支援をしていく。 ・各学年の取り組みについて、算数で行っている、3人での学び合い学習を取り入れる等、一層の工夫を行っていく。 ・事前テストの結果等を基にして、習熟度別少人数指導を積極的に入れる。
教育活動	● 志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・ 自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える生徒を90%以上にする。	・ 全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	B	・全学年で、学期のはじめ、毎月、生活や学習の目当てについて考えさせた。先を見通した目標について考え、掲示することで、振り返る機会を設けることができた。 ・5・6年生を対象にして、職場体験学習に来た中学生に「先輩に聞く」という企画を立て、中学校生活について話を聞く機会を設け、将来の進路について目標を立てることができた。 ・修学旅行の取り組みの中で、「先人の苦労について学ぶ」機会を総合の時間などに設け、学習し、実際に見学し自分の夢について考えることができた。	・ボランティア活動や、地域の活動への積極的な参加を促す。 ・キャリア教育の視点から特別活動や、各教科の学習の教育課程を工夫し、将来について考える機会を設ける。
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	学力向上につながるICT利活用教育の工夫・推進	・ICT機器の効果的な利活用により、授業が理解できたと感じている児童の割合を80%以上にする。 ・スマイル学習の各クラスの実施率を80%以上にする。	・ICT機器を活用した授業を毎日１単位時間以上実施し、効果的だった実践等を共有化することで、学力の向上につなげる。 ・スマイル学習の実施計画を周知したり、校内研究とリンクさせたりすることで、実施率を高める。	B	・国語、算数、社会、理科の4教科を中心に電子黒板を用いた授業を毎日行っている。 ・中・高学年を中心に、毎日1時間以上タブレット端末を活用して学習を進めることができた。単元に応じてスマイル学習を実施することができた。 ・スマイル学習では、ICT支援員のサポートも有り、計画的に実施することができた。	・職員連絡会や、学年会を通して、スマイル学習の実施について、共通理解をする場を設ける。 ・実施率を確認し、実施率が低い場合は積極的な活用を呼びかける。 ・校内研究とリンクさせることで、反転学習（スマイル学習）の実施率のさらなる向上を図る。
教育活動	○特別支援教育の充実	要支援児童への支援体制の確立	・校内支援委員会を中心とした校内支援体制を確立し、対象児童の実態の把握や支援を適切に行う。	・月１回の特別支援ミーティングを実施し、計画的な支援や研修等を行う。 ・児童の実態を把握し、「個別の支援計画」に基づいて、SCや専門機関との連携を図りながら、PDCAサイクルに沿って、より実態に応じた支援を行う。 ・職員連絡会で随時、児童の情報共有の時間を設けることで、全職員で共通理解を図る。	A	・特別支援ミーティングを行い、支援が必要な児童の実態や手立てについて考え、共通理解を図った。 ・実態に応じて「個別の支援計画」を作成した。また、専門機関との連携を図り、今後の手立てについて助言を得た。 ・職員連絡会の後に配慮を要する子の報告の時間を作り、職員間で共通理解を図った。 ・学級でできる特別支援や、合理的な配慮について、定期的に資料配布を行った。	・スクールカウンセラーや、スマイル先生との連携をより密にし、児童理解を図るために、教育相談との連携を図る。 ・個別の指導計画や校内支援シートは確実に情報管理を行うとともに、より適切で継続性のある支援を行っていくために活用していく。
教育活動	○読書の推進	読書習慣の形成	・朝読書の定着を図るとともに、「リレー家読」の奨励を行う。 ・年間１人１００冊以上を目指し、達成率８０%以上にする。	・朝読書の時間は、必ず席に着いて読書するように指導する。 ・週に2回は図書室の本を借りるように呼びかける。	B	・朝読書やリレー家読ともに、学級毎に取り組めた。 ・年間貸出1人100冊を目指して取組、50冊到達で「いつでも2冊借りられるカード」100冊到達で「すごいね！」シール、200冊到達で「プラス1冊券」のプレゼントといった取組で、多くの本に親しむことを奨励した。 ・全児童のおよそ2／3、低学年ではほぼ100%、100冊以上読むことを達成できた。	・週に2回は図書室に足を運ぶような習慣をつけさせるために、図書館祭りを実施し、図書室への興味関心を喚起する。 ・多読者を紹介し、貸し出しに関する関心をより高める。 ・学年に応じた本にこだわらず、自分のレベルに合った本を選ぶよう働きかけ、読書に親しませる。

③「体をきたえる　みふねっ子」の育成

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体つくり	運動習慣の改善や定着化	・体力・運動能力調査の結果から課題となった柔軟性や持久力、その向上のため運動習慣の改善に努めさせる。 ・体育的行事を推進し、運動に親しませる。 ・全てのクラスにおいて体育学習カードを活用し、運動への関心を高める。（昼休み外遊びの子60%以上）	・昨年度の調査結果と比較し、記録の伸びを確認させることで、運動意欲を高める。 ・縄跳び週間を設け、全クラスで取り組ませる。 ・学習カードを活用した体育の学習を推進する。	A	・スポーツテストを全校で実施し、昨年度と今年度の記録を比較させた。保護者に結果を配布することで、児童の運動の現状を周知することができた。 ・運動会では、各組の団結力が高まり、練習に意欲的に参加することができた。 ・縄跳び習慣を設定することで、記録にも目が向き、自発的な活動が見られた。 ・全学年で体育学習カードを活用した体育の授業を進めることができた。	・運動に関わる「〇〇週間」を設け、全クラスで取り組ませる。その際、学習カードを活用したり、結果を掲示したりすることで、意欲を高めさせる。 ・引き続き、学習カードを活用した授業を進め、めあてと振り返りに取り組ませることで、学習への意欲を高めさせる。
教育活動	○食育の推進	望ましい食習慣の育成と食に対する感謝の気持ちの育成	・朝ごはんの喫食率90%を目標とする。 ・給食週間での取り組みを通して食に対する感謝の気持ちを持たせる。	・放送による食育指導、児童によるポスター作成の実施、給食試食会等を利用した家庭への啓発を行う。 ・給食週間での活動を通して食に感謝する気持ちを育成する。	A	・放送による食育指導や児童によるポスターの作成掲示等を行ってきた。 ・給食指導について、共通理解、共通実践を図った。 ・残滓調査を毎日行い、その結果について定期的に伝達することで、食育についての意識の向上を図った。	・朝食喫食率の維持向上に努める。 ・全職員による日々の給食指導に加え、地域家庭との連携を図りながら、食事マナーの向上に努める。 ・教科、総合的な学習の時間、特別活動等において、引き続き食に関する指導に取り組み、効果的な指導となるよう栄養教諭の活用を図る。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	時間を意識した業務遂行	・超過勤務時間60時間以上の職員数0を目標とする。 ・毎月の超過勤務時間を意識させ、翌月は前月の時数以下になるように心がけさせる。	・日頃から「何時までに何をどこまでを行うか」、時間を意識した働き方を呼びかける。 ・家族のため自分のために、仕事のONとOFFを上手に使い分け、業務の効率化UPを意識させる。 ・職員会議等で業務改善について呼びかけ、定時退勤日には特に時間を意識させる。	C	・職員にタイムカードの記録を勤務記録表に各個人でまとめてもらい、毎月の勤務状況を意識してもらうようにした。勤務時間外の会議等が多く、その後に職員個人の業務を行うことになり退勤時間が遅くなる職員が多かった。 ・特定の職員に超過勤務時間が多かった。平日だけでなく休日の出勤も多かった。	・日頃から時間を意識した働き方を呼びかける。（何時までに何をどこまでを行う） ・家族のため自分のために、仕事のONとOFFを上手に使い分け、業務の効率化UPを意識させる。 ・職員会議等で呼びかける。定時退勤日には特に時間を意識させる。
教育活動	○地域連携の推進	コミュニティスクールの推進と確立	・公民館を核とした地域との連携に努め、情報交換や情報発信を行う。 ・地域行事における地域と児童との関わりを把握する。	・公民館における児童関連事業の調整を行う。 ・授業や行事での、みふねサポーターの協力を推進する。 ・ホームページを50回以上更新し、学校の情報を地域等に発信する。 ・地域行事への積極的参加を児童に呼びかける。	A	・公民館との連携は、様々な行事について、情報共有を行うことができた。漢字検定でも連携がとれている。 ・地域の行事についても地域の依頼に協力ができた。 ・県のホームページのシステム改修に合わせ、ホームページをリニューアルし、各学校行事等を掲載し、地域に発信した。	・授業や行事での、みふねサポーターの協力を推進する。 ・花まるタイムの実施に向けた取り組みを学校運営協議会、地域学校協働本部と密接に連携し、推進する。

4　本年度のまとめ　・　次年度の取組

・保護者アンケートからは、本校の教育活動に対しておおむね好意的な評価をいただいた。また、全職員一丸となって学校教育目標の実現に向け取り組むことができた。
・いじめへの対応については、引き続き、年2回の個人面談や心のアンケートを活用したり、子ども達と常にコミュニケーションをとったりして、子ども達の安心・安全な学校生活と心の成長を図っていきたい。
・ICT利活用教育については、スマイル学習や調べ学習以外でのタブレット端末の活用法を紹介し、活用頻度を高めていくと同時に、指導の工夫を図りたい。
・「働き方改革の推進」に関しては、時間を意識した業務遂行など、業務改善を引き続き図っていきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目